

ティーチング・ステートメント

所属 全学共通教育部
名前 小野 祥康
作成日 2023年3月22日

【責任】

一般教養としての「英語」の授業を担当している。本学では「Primary」「Intermediate」「Advanced」の3つの習熟度別で授業を展開しており、自分は「Primary」の全ての授業と、「Intermediate」1クラスを受け持っている。また、これとは別に「英語学習支援室」を担当し、スローラーナーに対する対応を行っている。

【理念】

私は、学生に対して、大学で何を学び、どういう将来像を描いているのかを常に考えながら、よく学び充実した大学生活を送ってほしいと思う。大学における学びは、その後の人生に大きく影響を与えるものと考え。就労先での上司や同僚との関係構築や顧客の接遇、あるいは企業の担当者との対応など、高いコミュニケーション能力は必須である。また、プロジェクトを適宜改善したり、事業を新規開拓したりする上でも、多様性を認めながら他人の意見を傾聴する中で自分の考えをきちんと主張する必要がある。とりわけ、これからのグローバル社会では、世界共通語としての英語をツールとして、豊かなコミュニケーションを図っていくことが重要である。

本学の学生には、こうしたことも踏まえて、よく学び充実した大学生活を送ってほしいと思うが、よく学ぶためには、何のためにどう学ぶのかを理解しなければ、モチベーションは高まらず、学習効果も減ってしまうであろう。英語の授業においても、基礎的な力を伸ばすためだけではなく、学習の内容がどう生かされるかを考えさせたり、学生の気持ちを考えつつ落ち着いて楽しい雰囲気大切に授業運営を心がけたりすることが必要である。

とりわけ、VUCAの時代、またAIアプリ等がどんどん開発されていく中、こうしたものをツールとしてどのように使っていくか、効果的な活用方法を検討し、英語の授業の中で導入していくこともこれから必要になってくると思われる。この時代に英語を学ぶ意義や重要性を根気よく説くことも重要となる。

【方針・方法】

英語の授業においては、取り扱う内容も大切だが、よく学び、充実した大学生活を送るために、学ぶ意義について考えさせたり、教師自身も学生と円滑にコミュニケーションを図りながら授業を運営したりしている。また、優れた授業実践についての本を読んだり、研修に参加したりしている。授業デザインの上で特に重視したいことは以下の3点である。

①『何のために学ぶのかを理解して学べる』

- ・学生に身に付けさせたい力を明確にする。
- ・シラバスを基に、学生が「英語を使って何ができる」ようになるかを意識して授業をデザインする。

②『学生の気持ちを考えたり、落ち着いて楽しい雰囲気を大切に作る』

- ・心配な学生への声かけをするとともに、その学生がどういう環境で学修しているのか、また他の授業での状況などについて、担任や学科との連絡調整を図る。
- ・学生がよい意見を述べたら、それを本人に伝えたり、他の人に話したりする。
- ・学生の話に耳を傾けるとともに、授業開始・終了時間を厳守しながら、学生の学修状況に寄り添った授業展開を行う。

③『授業改善のための努力をする』

- ・優れた授業実践についての本を読んだり、研修に参加したりしている。特に、この3年間では、授業内容だけでなく、遠隔授業の方法や使用可能なアプリケーションについて講習を受けたり、facebookで全国の大学教員が遠隔授業をどのように行っているかを共

有するようなグループに参加して情報を得たりするなどしてきた。

・また、本格的な対面授業の再開に当たっても、遠隔授業の際に身につけたスキルを効果的に活用しながら授業運営をするためのノウハウなどについても具体的な情報収集を行っている。

【評価・成果】

・学生からの授業アンケートでも好意的な感想が多かったが、遠隔授業で可能なよりよい学修システムを構築したり、提出された課題に対してのフィードバックを適宜行ったりするなど、改善の余地も十分にある。

・FD研修で授業を公開し、ある程度好意的な感想をいただけた。

・学習支援室でもスローラーナーに学ぶ機会を保障したり、学生からの質問に答えたりするなど相談機能を充実することができた。

【目標】

・大学における教育活動（授業）に力を注ぎ、FD活動を通して常に改善していく。（2023年度前期）

・対面授業においても、遠隔授業で培った授業運営上のノウハウの利点を生かしながら、授業デザインを行う。（2023年度）

・全学の英語を担当しているが、各学部・学科の専門の分野を勉強している学生にとって、その内容につながるような英語の授業になるよう、具体的にどのような専門分野の学修があるのかを情報収集しながら、ゆくゆくは自分の英語の授業にもそのエッセンスであったり、専門につながるような内容について取り入れるなどしていきたい。（2023年度前期）

・HUSスタンダード科目のシラバスデザインなどにこのあと取り組んでいく中で、高大連携やコンカレントプログラムを効果的に行っていくための情報収集に努める。（2023年度）